

# Wien Cinema Week



セゾン美術館「ウィーン世紀末～クリムト、シーレとその時代～」開催記念

## ウィーン・シネマ・ウィーク

新人監督の台頭により活況を呈すオーストリア映画界より、  
芸術の都ウィーンを舞台にした映画を厳選。  
古き良きウィーンの面影を見せる1930年代の名作2本を同時上映。

●上映作品●

「たそがれの維納」 1934年/ウィリ・フォルスト監督	「シュムツ」 1986年/バオルス・マンケア監督
「ブルグ劇場」 1937年/ウィリ・フォルスト監督	「38」 1986年/ヴォルフガンク・グリェック監督
「ゆるやかな死」 1981年/マンスール・マダヴィ監督	「スタンバーゲシューティングスター」 1988年/ニキ・リスト監督

会期▶10月15日(日)～24日(火) \*19日(木) 定休日

料金▶1,400円(当日1回券)/1,100円(前売・電話予約1回券)/2,000円(2回券)

※消費税込み/セゾン美術館「ウィーン世紀末展」のチケットをお持ちの方は前売り料金で御覧になります。

チケット取り扱い▶チケットセゾン ☎(03)5990-9999/

チケットぴあ ☎(03)5237-9999 都内各プレイガイド/スタジオ200

会場▶スタジオ200 (西武百貨店池袋店8F ☎(03)981-0111 (内)5328, 9)

主催▶オーストリア大使館/スタジオ200

後援▶オーストリア教育芸術スポーツ省/オーストリア通商代表部/

オーストリア観光局/オーストリア・フィルム・コミッション

協力▶日本ヘラルド映画株式会社 財団法人川喜多記念映画文化財団



西武百貨店  
Studio 200  
(西武池袋店8F)  
明大通り 至大塚

Studio 200

西武池袋店8F



池袋

## ウィーン たそがれの維納

“Maskerade”

【1934年/35ミリ/白黒/100分】

脚本▶ ヴィリ・フォルスト、ヴァルテア・ライシュ

監督▶ ヴィリ・フォルスト

撮影▶ フランツ・プラネア

音楽▶ ヴィリ・シュミット=ゲントネア

美術▶ カール・シュテパネク

出演▶ パウラ・ヴエッセリ、アドルフ・ヴォールブリュック、他

\*日本語字幕



▶ 古き良き時代のウィーンの社交界を舞台にした懐しの名作。ハプスブルク帝国の首都として栄えたウィーンは、爛熟した文化を誇り、そこでは人間たちの駆け引きさえもアイロニーに彩られた芸術となるのだった。時は1905年。名うでのプレイボーイ、ハイデネックは教授夫人をモデルに裸体画を描きあげる。ところがモデルをめぐる様々な噂が飛びか、窮したハイデネックはドワーア嬢という架空の名前をデッチあげるが……。

## ブルグ劇場

“Burgtheater”

【1937年/35ミリ/白黒/115分】

脚本▶ ヨッヘン・フート、ヴィリ・フォルスト

監督▶ ヴィリ・フォルスト

撮影▶ テオドル・バーレ

音楽▶ ベーテア・クロイデア

美術▶ ヴェルネア・シェリヒトリング

出演▶ ヴェルネア・クラウス、ホルテンゼ・ラキ、他

\*日本語字幕



▶ 18世紀に創立されて以来、ヨーロッパの演劇の殿堂として今日に至るまで栄光に包まれてきたブルグ劇場。ブルグ劇場こそウィーンのもう一つの顔である。名優ミッテラーは社交嫌いだ。ところが彼が若い娘レニにすっかり心を奪われた時から、虚栄に満ちた社交界と関わりを持つようになる。老優が見せる“まことの花”も見事ならば、若い娘の“時分の花”もまた美しい。ヴィリ・フォルスト監督の粹な演出にも花がある。

## ゆるやかな死

“Ein wenig Sterben”

【1981年/35ミリ/カラー/88分】

脚本▶ マンスール・マダヴィ、ディーテア・シュラーゲ

監督▶ マンスール・マダヴィ

撮影▶ マンスール・マダヴィ

音楽▶ ハイנטツ・レオンハーツベアゲア

出演▶ アルフレット・ソルム、マリア・マルティナ、他

\*日本語スライド字幕



▶ 長年住んできたアパートから立ち退きを命ぜられた老人が、孤独の中でたった一人の関わりを開始する。過去の思い出がしみついた古い家は、老人の命そのものであった。だが、家主側は法に訴え、時には老人の部屋の真上の屋根に穴を穿ち、彼を圧迫する。ウィーンの街も刻一刻と変化して、老人の愛したコンサートホールも閉鎖される。言葉の過剰を嫌うマダヴィ監督は映像の過激なスタイルズムを見せてくれる。サンレモ映画祭特別賞受賞。

# Wiener Cinema Week

## シュムッツ

“Schmutz”

【1986年/35ミリ/カラー/100分】

脚本▶ パオルス・マンケア

原案▶ フランツ・ノヴォトニ

監督▶ パオルス・マンケア

撮影▶ ヴァルテア・キントレア

音楽▶ イエロー

出演▶ フリッツ・シェディヴィ、ハンス・ミヒャエル・レーベック、他

\*日本語スライド字幕



▶ 86年のカンヌ映画祭で上映されるや、モントリオール、アヴェリアッツ、モスクワなど世界の映画祭の引っ張りだこになったファンタスティック・ホラー。監督は、ニキ・リストと並ぶオーストリア映画希望の星、パオルス・マンケア。限りなくウィーンに似たある都市が舞台。警備会社に勤めるシュムッツは廃工場の管理を任される。空っぽの建物はどこか無気味だ。が、シュムッツは建物に取り憑かれ、他人の侵入を徹底的に排除する。

## 38

“38”

【1986年/35ミリ/カラー/97分】

原作▶ フリードリッヒ・トアベック

脚本▶ ヴォルフガング・グリュック

監督▶ ヴォルフガング・グリュック

撮影▶ ゲラート・ヴァンデンベック

音楽▶ ペアト・グルント

美術▶ ヘアヴィック・リボヴィツキ

出演▶ トビアス・エンゲル、スズニ・メレス、他

\*日本語スライド字幕



▶ 1938年、オーストリアはナチス・ドイツに併合される。音楽を育み、芝居を愛し、そして様々な人間を受け入れてきた国際都市、ウィーンが変貌していく。37年、ヨーゼフシュタット劇場の女優、カロラは作家のマーティンと未来を語りあっていた。だが、ベルリンの劇場に出演したカロラは、ナチの将校にマーティンとの交際を断つよう忠告される。マーティンはユダヤ人だ。翌年38年、ユダヤ人圧迫がウィーンでも始まった。

## スタンバーグ・シューティングスター

“Sternberg—Shooting Star”

【1988年/35ミリ/カラー/100分】

脚本▶ ベーテア・ベーレッチ、ニキ・リスト

監督▶ ニキ・リスト

撮影▶ ハンス・セリコフスキ

音楽▶ ハーラルト・クロセア

美術▶ マンフレット・エーブネア

出演▶ ジャン=ピエール・コルヌ、パオルス・マンケア、他

\*日本語スライド字幕



▶ アンナキーな反都市論が見もの。監督は「ミューラー探偵事務所」のニキ・リスト。異星人のスタンバーグが「おっとり構えている間に主人公の座を横取りするハリレに扮するの」が「シュムッツ」の監督パオルス・マンケアである。都市生活を楽しむアルフとエヴィの若夫婦のアパートにある日、見知らぬ男スタンバーグがやってきて居候を決めこむ。彼は盲目のハリレまで連れてくるが、このハリレ、早速エヴィを誘惑。全てが壊れ、変わっていく。

	2	3	4	5	6	7	8	9
15日(日)	スタンバーグ・シューティングスター	講演			ゆるやかな死		シュムッツ	
16日(月)		たそがれの維納			ブルグ劇場		38	
17日(火)			38		ゆるやかな死		スタンバーグ・シューティングスター	
18日(水)			ゆるやかな死		38		たそがれの維納	
20日(金)		スタンバーグ・シューティングスター			シュムッツ		ブルグ劇場	
21日(土)		ゆるやかな死		スタンバーグ・シューティングスター			シュムッツ	
22日(日)		ブルグ劇場	講演		たそがれの維納		38	
23日(月)			シュムッツ		38		ゆるやかな死	
24日(火)			ブルグ劇場		シュムッツ		スタンバーグ・シューティングスター	

※入替制、当日12時より2回目以降の上映の整理券を配ります。

セゾン美術館 ウィーン世紀末〜クリムト、シーレとその時代〜開催記念

## ウィーン・シネマ・ウィーク

講演 15日▶ 田中千世子(映画評論家)  
22日▶ 長尾龍一(東京大学教授)